

特集

現地ルポ

寿都町、神恵内村が 誘致に動きだした！

なぜ、いま「核のゴミ」 最終処分場なのか

●リポーター
ジャーナリスト 黒田 伸



イチから知りたい！ 核のゴミと 文献調査

や地層処分に関心を持っていただき、ありがとうございます。ここではぜひご覧になってください。

- 日本ではどうなっているの？
- 地下に埋めてはどうなっているの？
- 調査に応募したら、どうなるの？
- 子どもの世代にどう備えるの？

▲NUMOの公式サイト

原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のゴミ）の最終処分場選定で、国が提示した第1段階の文献調査へ、全国初の応募が現実のものとなりつつある後志管内の寿都町と神恵内村。とりわけ神恵内村は泊村の隣に位置し、原発立地自治体の恩恵を受けてきた。いま全国から注目される人口800人余りの村はなぜ、文献調査に手を挙げたのか。現地では村民の声を聞いた。

（10月5日現在）

「過疎化防ぎ手立ては…」

「いま、神恵内村の人口は823人。音威子府村に次いで2番目に人口が少ない村だが、将来は一番人口が少なくなる可能性が高い。32人の商工会

員のうち40歳以下の経営者はいない。過疎化を防ぐ手立てはなく、地域内の商工業者は崩壊する。最終処分場誘致ではない文献調査には賛成する」

経済産業省資源エネルギー庁と原子力発電環境整備機構（NUMO）が

9月30日午後6時半から神恵内村漁村センターで開いた5回目となる最後の住民説明会。

64人が参加したなかで、村内の有限会社役員という男性は、後継者のいない村内の現状を紙に書いた文章を読み上げながら訴えた。

その中で、具体的な事業名を挙げたのが温泉施設の閉鎖だ。村の自慢で、札幌圏からも多くの観光客が訪れていたこともあ

る「リフレッシュプラザ温泉998」が老朽化して修繕のめどがたらず、今年4月17日で閉館した。道道998号にある看板の文字はペンキで塗りつぶされていたものの、村の中心部にある道路案内表示にはまだ「温泉998」の文字が残っている。温泉施設が閉鎖され

村内で二分する声

てから半年ほどだが周囲には雑草が生え、施設の傷みも激しかった。村の中心部にある商店もシャッターが閉まったままで夕方になると人通りはない。村役場の明りだけが点いていて、職員がこの説明会のために残っていた。

説明会の前半は、NUMO担当者が高レベル放射性廃棄物の説明と地層処分や文献調査の必要性について言及。前述の商工業者らが賛成の立場で意見を述べたあと、40代男性がマイクを握った。

と痛烈に批判。さらに、「請願は商工会の一部だけでまとめたものであり、村民全体の意見をくみ取れていない」

「村商工会は10年以上前から議論してきたが、それをたった数回の住民説明会で終わらせるのはあまりに乱暴だ」

があるように進む事態に不信感を露わにした。村内で「銀の鈴記念館」という名前をつけたギャラリーで日本画や油彩画、陶磁器などを展示・貸し

地層処分に関する説明会



科学的特性マップ 神恵内村周辺



▲9月30日に開かれた説明会（上下とも）



◀神恵内村役場



▶寿都町役場



続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)